

## 入選

### じいちゃんの親切

長野県 南宮中学校 2年 茂手木 伸伍

中学生になり、部活に行ったり友だちの家に行ったり、図書館に行ったりと、自転車に乗ることが増えました。帰宅すると、近所にいるじいちゃんの家駐車場に自転車を停めて自分の家に帰ります。ヘルメットは自転車のカゴに入れておきます。ぼくは何も考えず、それをくり返していました。

1年くらい前のことだったと思います。いつものように自転車を停めたとき、庭にいたおばあちゃんに呼びとめられました。

「伸ちゃん、かごの中のヘルメットをよく見てごらん。」

「……。」

「もし雨が降ってきたら、このままの状態だとヘルメットに雨水がたまって、次に使うときかぶれなくなるんじゃないの。」

「あっ。」

今までヘルメットの置き方なんて、ぜんぜん気にしていませんでした。

「伸ちゃんは、ヘルメットをぬいでそのままかごに入れるでしょう。それをおじいちゃんがいっつもひっくり返してくれていたことを知ってる？」

「えっ、知らなかった。じいちゃん何も言わないから。」

「雨が降りそうなときは、家の玄関に入れておいてくれていることを知ってる？」

ぼくはびっくりしました。ぼくの知らないところでじいちゃんは、雨が急に降ってきてヘルメットがぬれないように、何回も何十回もひっくり返してくれていたそうです。でもぼくは、そのことをおばあちゃんから聞くまで知りませんでした。それどころか、気づきもしませんでした。

「おじいちゃんはヘルメットをひっくり返したあと、伸ちゃんが自転車でケガをしないように、事故にあわないように、ヘルメットの頭をポンポンとたたきながら、願っているんだよ。」

と、おばあちゃんはつけ加えました。

ぼくのヘルメットは小学校から使っている、小学校の校章入りのヘルメットです。友だちみたいにかっこいいヘルメットじゃないし、ボロボロだし、たしかに乱暴に使っていました。でもそのヘルメットにこめられたじいちゃんの思いを初めて知って、はずかしくなりました。

ぼくはその日、じいちゃんに今までのお礼を言いました。

今でもときどき急いでいるときなど、ヘルメットを乱暴に放り投げてしまうことがあります。そんなとき、じいちゃんは黙ってヘルメットをひっくり返して、ポンポンとたたいてくれているそうです。

ぼくは今までじいちゃんの願いのおかげで、ケガをしたり事故にあわずに自転車に乗っていられたんだなと思い、あらためてじいちゃんに感謝しました。

「じいちゃんいつもありがとう。」